

第4回知立市地域福祉計画策定委員会 会議録

令和4年1月31日(月)

午後2時

知立市役所 現業棟 第10会議室

1. 出席者

(出席者) 14名

◎蔭山委員、伊藤委員、楠委員、竹本委員、石原委員、磯貝委員、永井委員、都築委員、岡田委員、

◎事務局 福祉子ども部長、福祉課(課長、係長、主査)

(欠席者) 1名(柴尾委員、新海委員)

2. 議題

(1) パブリックコメントの結果について

(2) 地域福祉計画素案について

(1) パブリックコメントの結果について

(事務局)

策定スケジュールについて説明。

(蔭山委員)

パブリックコメント実施の意義は、広く関心を持ってもらい意見をいただくことで委員会の意見のみに偏らず計画を策定していくということかと思う。意見がないということは関心を持ってもらえていないということではないか。

委員だけが一生懸命考えていくだけでなく、パブリックコメントで多く意見が集まるような市になっていってもらえるとよいと思う。そうしていくために、また後程皆さんからも意見をいただけたら。

(事務局)

2点ほど報告します。まず、この計画については最終的に市議会の承認を得ていくことになるため、パブリックコメントに先立ち、事前に議会へ説明を行い、議会として意見があるようであればパブリックコメントの期間内に提出してもらおうよう話をしておりました。そちらのほうについても結果として意見が出ておりません。特段意見すべき事項がないということなのか、議会の場においてという形になるのかは不明ですが、現状として報告します。

また、12月議会の中で若年層のアンケートを実施していないことについて質問がありました。事務局としては他に若年層の意見を集める機会を設けることを想定していましたが、コロナ禍の影響により実施ができませんでした。

(蔭山委員)

アンケート以外の形で意見収集の形を何か考えていたということか。

(事務局)

地域の住民会議等にこちらから出向いて、実際の状況を見ながらやりたいと考えていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりそういった形が取り難い状況になってしまった。

(蔭山委員)

現状は、コロナ禍の影響もあるので難しいが今後は若年層を含めた一般市民の意見を吸い上げる機会を作っていくことが必要かと思う。子ども議会のような形で代表として話すということになると必然的に考える機会にもなるし、意見を吸い上げることもできる。子ども、高校生、若者、一般市民など広く意見を吸い上げる、考える機会を作っていくことが必要ではないか。意見が出るのを待っているだけでは足りないと思う。

(事務局)

今回の計画期間においてそういった機会を設けていければと考えています。

(蔭山委員)

社会福祉協議会のほうではどうか。

(竹本委員)

アンケート結果を見ても、若い世代ほど関心が低くなっている。待っているだけではだめで、場に引っ張り出すような機会の創出が必要と考えている。また、若者にとっては福祉の必要性がわかりにくいというのも関心が低いことの一因ではあると思う。

(蔭山委員)

福祉のことについて大学生と話す機会があるが、やはり今の自分たちには関係ないという感覚が見える。必要になった時に急に新たな施策は出てこないで、自分の体が動くうちから取り組んでいくことが重要だと話してはいるがなかなか伝わらない。そういった状況で待ちの姿勢では関心は上がってこない。福祉について積極的に取り組んでいく状況を作っていくかといけない。

(永井委員)

孫の話になるが、子ども会に入らないかということで回覧が回ってきたが、周りに訊いてから考えるというようなことを言っていた。そういう風に地域で参加することが当たり前だったことが当たり前ではなくなっているのを感じる。計画を立てて、実際に効果が出るまでにはそれなりに時間がかかる。そういった意味でも子どもころから集団に関わり何かを成し遂げていくという経験は必要かと思うし、学校だけでは学べないことだと思う。

(磯貝委員)

子ども会が無くなっている地区があるという話も聞く。地域の子ども会がなくなることで、子どもたちが地域と関わる機会がなくなっていくのではないかと危惧している。

(永井委員)

なぜなくなってしまうのか。

(竹本委員)

役員のみ手がないというような話を聞く。

(蔭山委員)

役員をやらないといけないのであればやらないというような話を聞くことはある。

(楠委員)

住んでいる地域ではなくしたくないと思っている親世代も多くいた。役員をやることも構わないという人もいるが、同じ人が何度もやっていて、役員をやるのが重荷になってしま

っていることに問題があるように感じる。また、別の地区では外国人が多くなってきて文化の違いから継続が難しくなったところもあるといった話も聞く。地域によって継続できるのかどうか、そのための課題が違う。そういったところで継続のために市が関わってほしかった。

(蔭山委員)

おっしゃる通り、子ども会の状況は地域によりさまざまである。教育委員会として言っているのは、今は親の状況も変わってきており、忙しくてもやりたくなるような子ども会でないと人は離れていく。子どもも含めて地域社会教育を考える場を作ってほしいとお願いをしており、そういった学校だけではできない教育の部分で子ども会も関わってほしいと考えている。

(都築委員)

そういった地域の会が減っているという状況は知立市に限らず全国的にある。活性化のためにいろいろな取り組みがあり、講演会を行ったりということもあるが、企業の場合だとどうしても営利の話も入ってくる。今いる人はどうしても歳をとって活動が難しくなるといったことがあるので、活性化していかないと続いていかない。

(楠委員)

教育委員会という話が出たが、子ども会と教育委員会はこういった関係性にあるのか。

(蔭山委員)

子ども会自体は学校での活動ではないので教育委員会としての責任があるわけではないが、児童生徒の活動である以上は関わっていかないわけにはいかない。社会教育という観点から見れば教育の一環でもあるので、関係のあることだとは思いますが、やはり別組織になってしまうので、知立市子ども連合会の解散についても教育委員会としては何もできなかった。そういった状況で教育として一本化してみていくことができていない。

(楠委員)

知立市子ども連合会がどこにも頼れないということが構造的に問題があるのではないかと思う。連合会が解散することで子ども会の立ち位置がどう変化していくのか。町内会付けになったり、独自サークルのような形になったり、あるいは学校と一体になったりするのか。

(蔭山委員)

学校と、という話になると学区の話になってきて各校の校長がどうするのかというような話になっていく。教育委員会、校長というところだとどうしても学校教育が中心となるので、社会教育という視点では関りきれない部分が出てしまう。

(2) 地域福祉計画素案について

(事務局)

地域福祉計画素案について説明。

(蔭山委員)

市の計画と社会福祉協議会の計画が一緒に書いてあるが住みわけがわかりにくい。根拠等どうなっているのか。

(竹本委員)

もともとは別々に作っていたが、同じ方向性のものであるので、一体で策定するのが望ましいというところで前回より一体で策定している。

(事務局)

知立市という行政の計画が地域福祉計画です。市の計画のほうでは下位計画として各福祉分野の具体的な活動計画が入ってくることになるので、市の取組については方向性を示すものとして作っている。社会福祉協議会は地域の福祉に関して重要な役割を担っていると捉えており、同じ方向を向いていることが地域福祉の推進に効果的であり、そこに一体的に策定していく意義があると捉えている。

(永井委員)

市の計画、社協の活動が書いてあるというような捉え方をしている。一体的に策定していくことで事業の構造や予算の話がしやすいとかそういった部分もあるのかと思う。

(岡田委員)

市が予算を取り、社協が実際の活動を担っているというのが実態でないかと思う。

(永井委員)

まだやれていない部分については予算がついていないということなのか。例えば成年後見制度の関係は以前より訴えているが現状では足りない部分があると思う。

(蔭山委員)

それ自身が関心が薄い原因だとは思わないが、いまだにその辺の関係性がわからない部分があり、明確にしていくことが必要なのではないかと思う。

(竹本委員)

市が予算をつけて社協がやるという部分もあるが、必ずしもそういったものだけではない。市が主体としてやっていることもあるし、社協として制度に乗ってこない人を救っていくことも考えていかないといけない。

(蔭山委員)

市と社協の関係性がわからないと計画の内容も理解しにくい。

(事務局)

市の計画の体系としては具体的な施策は各個別計画で定めていくことになる。一方で社協の計画は、今回一体的に策定する計画が具体的な活動計画となっている。

(磯貝委員)

体育館で障がい者向けの事業など行っているが、体育館に行くには足がないと障がい者には参加しにくい。車に乗れないと難しいし、ミニバスも乗り換えが多くアクセスしにくい。行きづらいと足が遠のいてしまう。社協の事業では送り迎えがあったりするが、市のものではないのはなぜか。

(事務局)

社協の事業は委託の中でそういったこともやってもらっているが、身障者センターの事業のほうでは予算の関係上そこまでは難しかった。

(磯貝委員)

行くのが大変だと足が遠のいてしまうので、そういったことも考えてもらえると嬉しい。

(蔭山委員)

そういった個別の援助活動を考えていくと、まだまだ足りない部分が出てくると思う。少しずつ考えていけるとよい。

(岡田委員)

今後、高齢者の比率が増えていき、人口も増えていくという推計になっていると思う。今

後地域福祉計画をまた更新していく中でこうした大きな流れを考えながら作ってもらいたい。個人的には孤独死が増えていくのではと懸念している。高齢化が進むことに伴う問題が出てくるということを念頭に置いて考えていってほしい。宅地化が進む中で緑地が減っており、高齢者が外に出るような環境が減っていつているのではないかと感じる。ある程度地産地消ができる知立市というのは福祉の問題でもあると捉えていってほしい。

人口ビジョンでは今後も人口増加が進むとなっているが、本当に増えていくのか。

(事務局)

人口ビジョンについては、市の最上位計画である総合計画とも連動しているものであり、数字については各自治体が持続可能な自治体となるようにしていきなさいという話が国からきている中で、高齢化率や出生率、転入転出の状況が国から提供され、それをもとに市が独自で推計したものである。持続可能という点から出生率の向上が求められる中で、それを見込んでいる部分もある。そういった形で実際の数字と今後の目標から推計した数字となっている。

(永井委員)

どんどん街が変わっていつており、人口が増えるという点では一つの目標が達せられているように感じる。

ただ、知立市は小さな町であり、大きな特色があるわけでもない。人口増を目指すことが悪いとは言わないが、国の方針というだけでなく、知立市独自の小さい街なりの良さを考えたまちづくりの方針があるとよい。

(楠委員)

先ほど話に出た総合計画というのはどこが作っているのか。

(事務局)

企画政策課というところが所管している。市役所が行っているすべての事業の方向性を定めている計画になっている。

(楠委員)

先ほどの磯貝委員の話からも市では事業を考えてはいるが、実際の利用者のことが考えられていないのではないかと考える。市と社協が相互に関係しているという話があったが、総合計画については社協側から反映される部分はないのか

(竹本委員)

社協から何かを挙げていくというよりは協働して進めていく立場にあると考えてもらえるとうい。

(楠委員)

高齢者が増えていく中で様々な問題が出てくるという話があったが、障がい者の関係でも様々なと思う。また、緑が減っているというような話があったが、最近家は増えていて子どもの遊ぶ場所に困ってしまう状況もある。

いずれにせよ、大本となる総合計画から市民にわかりやすいとうい。

(岡田委員)

先ほども話に出ていたが、子ども会がなくなっていくのも問題だと思う。子どもの育成年代にあたる親世代に福祉の問題を含めたことを理解してもらい、親世代が地域に関わっている姿を見せていかないと、子どもたちがそういう形に育っていくのは難しいのではないと思う。そう考えると親世代に福祉の問題を考えてもらえるようにしないといけない。親が挨拶しない家の子は挨拶しないし、逆もまたしかり。親の姿を見て子は育つというところはあるので、親の世代に福祉の問題を

理解してもらう機会を市として手を広げていく必要がある。

(蔭山委員)

福祉という概念が今までは狭すぎたのかもしれない。障がいや高齢者、子どもなど限定されてきた。地域福祉という考え方をもっと広く、すべての人たちに対して必要な援助をすることを考えていかないといけない。福祉という概念のアップデートが必要である。すべての人にいきわたる福祉ということを考えると計画の推進において考えることがいろいろあるように思う。